

第1部講演録

「川から海へ、意識をつなぐ

『かめおかプラスチックごみゼロ宣言』

亀岡市 市長 桂川 孝裕



皆さんこんにちは。ただいま紹介いただきました亀岡市長の桂川孝裕です。亀岡市は、京都と大阪に接する人口約8万7千人の町です。「とかいなか(都会+田舎)」と言ひまして、大変自然が豊かで、しかし京都へは30分、大阪へ40分、神戸へも1時間ぐらいで行ける距離にあります。盆地ですので、ちょうどこの時期は、よく霧が出ます。私はこの霧を、大地の呼吸と言っています。先週 その亀岡の霧のテラスをNHKさんにテレビ放映いただき、大変多くの方に見に来ていただけました。その霧が、亀岡の素晴らしい京野菜をはじめとする農産物を育ててくれているのです。



私の町は、保津川下りやトロッコ列車など、まさに保津川という母なる川を中心に観光事業が行われています。コロナ前は年間約150万人の観光客が、トロッコ列車に120万人、保津川下りに30万人から35万人が利用する、川の観光を中心に成り立っている町でした。



しかし残念なことに、20年ほど前から大水が出るとペットボトルやプラスチックのゴミが川を覆うようになり、特に樹木にはレジ袋などが引っかかり、まさに観光業にとってデメリットとなる状況が出てきました。「京都の自然を楽しみに来たのに、こんな汚い顔を見せるのか」と保津川下りの船頭さんへ投げかける方もあり、我々の故郷の川を守る取り組みをしなければならぬということが、プラスチックごみゼロ宣言の原点となりました。

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」に係る取り組み経過	
1999年	亀岡青年会議所2020ビジョン特別委員会を設置 2020年の目指す都市像「エコロジックミュージアムの創造」 世界に誇れる環境先進都市の実現 に決定する。
2000年	亀岡青年会議所に環境委員会を設置 河川清掃活動の取り組みを始める。
2004年	保津川下りの船頭さんによる清掃活動が始まる
2007年	保津川の環境保全に取り組みNPO法人プロジェクト保津川が誕生(法人設立は2008年)
2012年	内閣部の自治体初海ごみサミット2012亀岡保津川会議開催
2013年	川と海つながり共創プロジェクト設立
2015年	亀岡市長選挙にて「かめおか未来チャレンジビジョン」で環境先進都市を目指すビジョンを示す。
2018年3月	亀岡ゼロエミッション計画を策定

私は1999年、亀岡青年会議所の2020年ビジョン特別委員会メンバーとして20年後の亀岡の未来をどうするかを議論し、『『エコロジックミュージアムの創造』世界に誇る環境先進都市の実現』を掲げ、20年後の亀岡は環境を政策の切り口として進めていくことを決定しました。そして私が初代の環境委員長になり、保津川の河川清掃を始めました。2004年からは、保津川下りの船頭さんたちにより、保津川を守っていこうという取り組みが始まりました。NPO 法人プロジェクト保津川は、私が設立発起人の一人になっていますが、川のゴミ調査を行っています。亀岡からゴミを流すと、大水が出ると大阪湾まで1日で到達するというようなGPSを使った実験なども行ないました。2012年、海のない亀岡で「海ごみサミット 2012 亀岡保津川会議」を開催しました。丁度私が府議会議員の時でしたので京都府からも予算をいただき、世界中から500名ぐらいの方が集まりました。会議に併せて「川と海つながり共創プロジェクト」を設立し、川の下流域や上流域などいろんな団体の方々とコラボしながら、保津川を守っていく取り組みを始めました。2015年の市長選出馬においては「かめおか未来チャレンジビジョン」というマニフェストを作り、環境先進都市を目指すことをビジョンへ明確に掲げ、当選後「亀岡ゼロエミッション計画」を策定しました。

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」に係る取り組み経過	
2018年12月	「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を発信
2019年	亀岡市長選挙にて「かめおか未来チャレンジビジョンII」を発表 プラスチック製レジ袋の提供禁止条例の制定 エコウォーカー、不法投棄の抑制、ポイ捨て禁止条例 に取り組むビジョンを示す。
2019年	プラスチック製レジ袋の有料化 がスタート(亀岡市内)
2020年3月	亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例 制定
2020年7月	国のレジ袋有料化 がスタート
2021年1月	亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例 を施行

そして2018年「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を発信しました。プラスチックは利便性が高く安いのですが、一方で安いから一回使い捨ててしまうことがほとんどで、残念ながら故郷の川保津川を汚すごみになってしまいました。2019年の私の2度目の選挙では、具体的にプラスチック製レジ袋の提供禁止条例の制定やエコウォーカー、ポイ捨て禁止条例をつくることをマニフェストに掲げて当選させていただきました。2019年「プラスチック製レジ袋の有料化」を実現したのですが、まさしく困難の連続でした。ちょうど国がプラスチックのレジ袋有料化を2020年7月から始めると発表した時で、それを1年

前にスタートさせたものですので、それこそ地元事業者・小売店との対話を必死に続けて、やっとの思いでこぎつけたというのが実際のところでありました。そして2020年3月に「レジ袋の提供禁止に関する条例」を議会に提案しました。多くの議論がなされた結果なんとか条例は制定しましたが、施行は一定の市民の理解が広がるまで少し待つこととしました。また、条例に従わない場合は事業者名を公表するという罰則規定を盛り込むことも、議論のすえ承認をいただきました。そしてその年の7月に国のレジ袋有料化がスタートしました。国は、レジ袋は有料だが紙袋は無料だと言いました。私は直接小泉大臣にお会いして、資源の問題、環境の問題を考えると紙袋も有料化するべきではないか、ごみを減らすことがまさに地方自治体にとっての大きな課題であると話をしました。国もいろいろな経済団体があり簡単には動けないので話を聞いていただいたことですが、実は亀岡市では紙袋も有料化しており、今日持ってきましたが、こういう紙袋を亀岡市が5種類作り、2分の1は補助を出して2分の1は事業所に負担いただく。事業者は利用者からその代金をいただくことで、有料化の取り組みを進めてきました。そして今年の1月、プラスチック製レジ袋の提供禁止条例を施行したということです。おかげで、スムーズに進むことができました。これも、職員をはじめ関係者の皆さんが丁寧に地元の中小事業者に説明をしてきて、私も市民の皆さんへ何十回とそういう場をもって説明を重ねてきた、まさに対話によって成し得ることができたということです。


「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」 宣言文
<p>深刻化する海洋プラスチック汚染は、魚や海鳥などの海の生態系にまで大きな影響を与え、地球規模の問題となっています。ここ亀岡でも、大量のペットボトルやレジ袋などのプラスチックごみ問題が、保津川をはじめとする自然景観や市民の生活環境、そして観光にも大きな影響を与えているだけでなく、「市の魚アユモドキ」に代表される多様な川の生態系にも影響を及ぼすことが危惧されています。</p> <p>この問題は、私たち一人ひとりの身近な問題として捉えていく必要があります。そして、私たちにできる身近な取組みを国内外の他都市とも連携し、湧き上がるような大きな流れを巻き起こしていかなければ解決できるものではありません。</p> <p>今、世界では、使い捨てプラスチックごみの削減に向けた動きが加速しています。亀岡市は、平成24年に内陸部の自治体で初めてとなる海ごみサミットを開催し「母なる川保津川」から海ごみをなくす取り組みを発信してきました。こうした取り組みをさらに深化させ、みなさんとともに2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロのまちを目指します。</p> <p>そして、自然環境の保全と地域経済の活性化に一体的に取り組む『世界に誇れる環境先進都市』を実現します。</p> <p>2018年12月13日 亀岡市長 桂川 孝 祐 亀岡市議会議長 湊 泰 孝</p>

これは「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」の宣言文です。2030年までに使い捨てプラスチックを無くすことが大前提として、市議会議長と連名で宣言しました。

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」 宣言文

【目指す目標】

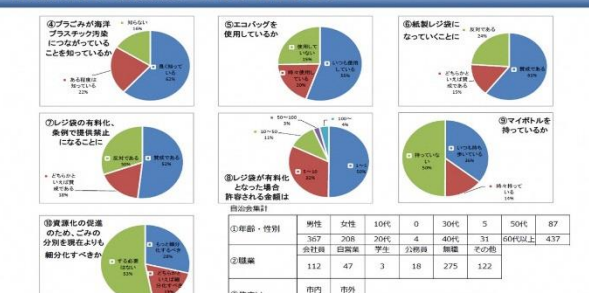
- 1 市内の店舗でのプラスチック製レジ袋有料化を皮切りにプラスチック製レジ袋 禁止に踏み切り、エコバック持参率100%を目指す取組みを進めます。
- 2 「保津川から下流へ、そして海にプラスチックごみを流さない。」世界規模の海洋汚染(マイクロプラスチック)問題に立ち上がる意識のつながり呼び掛けます。
- 3 当面発生するプラスチックごみについては100%回収し、持続可能な地域内資源循環を目指します。
- 4 使い捨てプラスチックの使用削減を広く呼びかけ、市内のイベントにおいてもリユース食器や再生可能な素材の食器を使用します。
- 5 市民や事業者の環境に配慮した取り組みを積極的に支援し、世界最先端の「環境先進都市・亀岡」のブランド力向上を目指します。



8

目指す目標として、エコバック持参率100%、保津川から世界規模の海洋汚染プラスチック問題へ意識を繋げる、プラスチックごみを 100%回収する、イベントではリユース食器を使用、亀岡は環境先進都市を目指すといった5項目を掲げました。

市民説明会での意識調査 28会場・回答者610名



①年齢・性別	男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
②職業	367	208	20代	4	40代	31	60代以上	437
	会社員	学生	主婦	無職	その他			
	112	47	3	18	275	122		
③住まい	市内	市外						
	577	3						

2020.1.11現在

10

市民の意識がどれだけ高まるかということが、この事業を進めるうえでの大きな課題だったと思っています。市民の皆さんへは特に懇切丁寧に、この保津川がまさに大阪湾につながり、地球全体の海につながっているという意識を醸成していく取り組みにより、アンケートからもそういう意識が高まってきたことが分かります。レジ袋の有料化、提供禁止へも賛成の方が半数以上となっています。ごみを分別して資源に変えていくことについては、まだまだ理解が必要だと思っています。エコバックの使用は、多くの方が利用をしてくれるようになってきました。紙製レジ袋になっていることにも多くの方が賛成いただくような取り組みにつながってきたところであります。

かめおかプラスチックごみゼロ宣言」の第一歩
「プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」による意識の変化

エコバック持参率・レジ袋枚数の状況



736,744枚 (2019年7月)

645,385枚 (2020年7月)

53.9% (2019年7月)

55.8% (2020年7月)

98.1% (2020年7月)

13,473枚 (2020年7月)

2019年7月比約 63万枚減少
2019年8月以降の削減枚数 1,300万枚以上

11

現在ではコンビニでも98%以上の方がマイバック、エコバックを持って地元の人が買い物をしているようになりました。他府県から来られた方はまだ理解が整っていませんが、コンビニ業者に聞くと、亀岡市にはこういう制度がありますよということレジの所に掲示して啓発をしており、大きなトラブルはないと伺っています。エコバック持参率を増やし、レジ袋の枚数を減らすことができてきた結果、河川調査を続けていますが、レジ袋のゴミは格段に減ったと思っています。

「環境×芸術」のコラボによるレジ袋削減に向けた取組み



KAMEOKA FLY BAG Project

12

その他、実は亀岡ではパラグライダーの発着点がありまして、パラグライダーや気球などのスカイスポーツが盛んです。そのパラグライダーの帆となるこのプラスチック製のビニールは、何年かすると買い換える必要があり、それをリユースしようということで、大きなフライバックとして、イベントで7~8mの大きなエコバックを作って展示しました。

巨大エコバックからオリジナルエコバックをつくるワークショップの様子



13

このような取り組みをしながら、このプロジェクトをまさに市民参加によって、ワークショップでオリジナルエコバックを作る取り組みを行いました。先ほどの大きなやつを開いて、自分の好きなところを切り取って、その場で縫い合わせてエコバックを作るという取り組みをやりました。このときはまだフライバックプロジェクトということでの取り組みでした。



その後亀岡は、芸術家の方々とコラボレーションして「霧の芸術祭」を行っています。芸術家の方々と一緒に「HOZUBAG (保津バッグ)」を製作し、いま銀座のロフトでも販売しており、全国 50 カ所以上でこのバッグを販売しています。市民から亀岡の HOZUBAG が佐賀空港にもあったよという話もございました。クラウドファンディングで、リユースできるパラグライダーの生地を作る古民家を借りまして、ここを拠点として障がいのある方にも協力いただきながら、このエコバッグの生産を始めています。



銀座のロフトで、2020年10月からHOZUBAG販売していますが、おかげで多くの注文をいただくようになりました。フランスでも展示をされましたし、東京の国立美術館で現代の装飾品として、美術館にも展示される取り組みが行われました。



いま亀岡市は、多くの企業からいろいろなことをやりたい、環境事業をやりたいといったコラボレーションのオファーをいた

だいています。これはソフトバンクさんと一緒に子どもたちへ環境教育を進めていくということで、ペッパー君を含めて連携協定を結び、子どもたちへ環境学習を行っています。



ユニクロさんとは、エコバッグ持参とショッピングバッグの廃止を連携して取り組んでいます。ユニクロの皆さんに亀岡の中学校へ課外授業の形で来ていただき、ユニクロが取り組む自然素材を含めた環境の授業を進めていただいています。



ブリタジャパンさんとは、プラスチックのペットボトルを無くす取り組みとして、マイボトルを持つ取り組みを始めています。実はペットボトルも、先ほど見ていただいた川の汚染として、大変多く流れ着いています。これを無くしていくため亀岡市では、ペットボトルの飲み物の自動販売機をなくしてきています。このボトルをブリタさんから1万本くらい提供いただいています。実は亀岡は大変おいしい水が出る場所ですので、給水スポットを作ってボトルを持参する取り組みを行っています。またブリタさんも高校や中学校で環境授業を実施し、環境への取り組みを応援いただいています。

リバーフレンドリーレストランプロジェクト (2021年3月15日～)

■環境に配慮した取組みを実践する市内飲食店等を募集し、市内外に情報発信⇒さらなる誘客につなげる

■環境先進都市・亀岡市のブランドイメージ向上と地域経済の活性化を目指す

【River Friendly Restaurants 認定基準】

- 次の認定基準を満たす
 - ・洗剤ボトル容器は使用しない
 - ・ごみの減量と適切なサイズに取り組み
 - ・店舗内での商品の提供には、使い捨て食器等を使用しない
 - ・テイクアウト時の紙袋やカトフリー類は、顧客の要望があった場合にのみ提供する
 - ・紙ストローは顧客が希望した場合にのみ提供する
 - ・無料でマイボトルに給水できる
 - ペットボトル製品を販売しないなどのオプション基準を2以上満たす

■エコ・スポンサー料(登録料)として3,000円負担
⇒子ども達の環境学習活動などに活用
⇒次世代の育成

登録店舗: 13店
(2021年11月10日現在)

19

リバーフレンドリーレストランプロジェクト、これは環境を重視するカフェやレストランを共に応援しながら、なるべくプラスチックのスプーンやストローなどをなくしていく取り組みで、今まで13店舗に登録頂いています。

いつでもどこでも「亀岡のおいしい水」プロジェクト

マイボトルの普及促進を目指し、一般社団法人Social Innovation Japanと「かめおか未来づくり環境パートナーシップ協定」を締結(令和3年4月9日)

【亀岡市の取組み(抜粋)】

- ・マイボトル対応の給水スポットの主要公共施設への設置
- ・市内飲食店等に対する、給水スポット登録の呼びかけ など

【一般社団法人Social Innovation Japanが推進するSDGsに向けた取組みや活動(抜粋)】

- ・mymizuによる、食料ロス削減の推進(食料ロス削減、廃棄物削減)
- ・mymizuアプリの給水スポット一括検索実装した市民の付録給水実務行動などの可視化
- ・mymizuチャレンジのコーディネート
- ・mymizuアプリによる環境教育の充実 など

市内公共施設7か所及びおいしい水スポット登録店53店舗
(2021年11月10日現在)の情報をmymizuより発信

20

公共施設には、おいしい水プロジェクトとして浄水器を設置し、mymizu という給水アプリを開発した一般社団法人 Social Innovation Japanさんと連携し、ペットボトルを少しずつ無くしていく取り組みを始めてきています。

いつでもどこでも「亀岡のおいしい水」プロジェクト

給水スポットの普及促進を目指し、ウォータースタンドと「かめおか未来づくり環境パートナーシップ協定」を締結(令和3年4月9日)

【亀岡市の取組み(抜粋)】

- ・市内公共施設の給水スポットの主要公共施設への設置
- ・市内飲食店等に対する、給水スポット登録の呼びかけ など

【ウォータースタンド株式会社とのSDGsに向けた取組】

- 亀岡市の実施する事業等への協力及びプラスチックごみの削減の推進
- 市民・事業者との連携によるプラスチックごみ削減及びプラスチック類の削減に貢献する取組の推進及び給水設備の提供
- 次世代に向けたマイボトル普及活動の推進

小・中・義務教育学校25校に給水スタンド設置拡大 (R3)

21

そして市内では、いま多くの事業者のところでも亀岡のおいしい水を無料で提供いただく、「かめおか未来づくり環境パートナーシップ協定」を結んでおり、自分がボトルを持っていけば、無料で水をもらうことができるという取り組みを、もう40カ所以上のところで実施しています。

いつでもどこでも「亀岡のおいしい水」プロジェクト

マイボトルの普及促進を目指し、株式会社DESIGN WORKS ANCIENTと「かめおか未来づくり環境パートナーシップ協定」を締結(令和3年6月22日)

【亀岡市の取組み(抜粋)】

- ・マイボトル対応の給水スポットの主要公共施設への設置
- ・市内飲食店等に対する、給水スポット登録の呼びかけ など

【株式会社DESIGN WORKS ANCIENTのSDGsに向けた取組】

- マイボトル普及に向けた事業啓蒙
- ごみ削減に寄与するPETボトル容器管理を通じてのマイボトル普及の推進
- 水への需要に合わせた環境にやさしい商品開発による、資源循環の促進

7,000本のマイボトル「ポケトル(S)」の提供を受け子育て支援等と連携したマイボトル普及啓発を推進

22

株式会社 DESIGN WORKS ANCIENT さんからポケトルという小さなボトルを7,000本寄付いただき、お母さん方に持っていただく形で、市内の保育園、子育て世代の方々にプレゼントいただきました。ここには亀岡の環境マークが施されておりまして、こんな取り組みも進めてきております。

BRITA Japan株式会社×mymizu チャレンジin亀岡

10月1日～10月31日 約1,200人応募!

BRITA Japan x mymizuチャレンジ in 亀岡

チャレンジ結果発表

- 4,274人
- 137,543本
- 7.88km

23

マイボトル(ステンレスボトル)の資源化モデルの構築へ

マイボトルの普及促進を目指し、タイガー魔法瓶と「かめおか未来づくり環境パートナーシップ協定」を締結(令和3年7月29日)

【亀岡市の取組み(抜粋)】

- ・マイボトル対応の給水スポットの主要公共施設への設置
- ・市民・事業者等に対する、給水スポット登録の呼びかけ
- ・使用済みステンレスボトルの回収システムの構築 など

【タイガー魔法瓶株式会社とのSDGsに向けた取組】

- 産官学連携による持続可能なステンレスの表現
- 行政との連携による使用済みステンレスボトルの資源化モデル構築
- 資源循環に貢献するパートナーシップ型地域への展開の推進

24

mymizu チャレンジとしてペットボトルをなくしていく取り組み、実は亀岡市の職員も私も毎日マイボトルを持っていますが、既に約8割の職員へ広がっており、ペットボトル依存症から切り離していく取り組みが進んでいます。またステンレスボトルの資源化回収という取り組みも、タイガー魔法瓶さんと一緒にさせていただいています。

新感覚の清掃活動『エコウォーカー』事業 (2020.3~)

登録者数 1,063名 (2021.11.10現在)

◆エコウォーカーとは
 ・エコウォーカーは、ウォーキングしながら行う、身近で気軽に自由な清掃活動です。

◆活動
 ・それぞれが自由な時間・タイミングで、気軽にウォーキング&ごみ拾いへGO!!
 ・収集が困難な不法投棄や大量のごみを発見したときは、環境政策課へ通報!!

◆応募方法
 ・応募用紙を、亀岡市役所環境政策課へ!!
 ※FAX、メール可
 (〒2030017 Asakuryu-sona@city.kamooka.lg.jp)
 詳細・応募用紙はこちら
 問：環境政策課 ☎25-5024

亀岡市は、世界に誇れる『環境先進都市』を目指します。

エコウォーカーに現在 1063 人が登録しています。これは健康維持のため歩いたり走ったりする人たちへ、週 1 回自分の家の周りのゴミを拾ってもらう活動です。スポーツ感覚で取り組んでおり、市民の皆さんとの交流を進めています。

次世代育成『エコウォーカーキッズ・チャレンジプログラム』事業 (2021.7~)

■保育所、幼稚園の年長児を対象に、清潔で快適なまちづくりへの想いを醸成し、将来にわたり環境を守育てる意識の芽生えに導く。(2021年度は、市内保育所で実施。2022年度以降に市内全保育所、幼稚園に拡大予定)

活動内容
 STEP1 散歩をしながらごみ拾い
 STEP2 拾ったごみを分別・調査
 STEP3 調査結果を亀岡市に報告

~更なる展開へ~
 ・子供たちの活動を通じ、家族や地域に『エコウォーカー』が拡大
 ・卒業時に次の世代へバトンタッチ。
 『想い』『意識』を継承

プログラム参加者には、ごみ拾いのトングとチャレンジユニフォームを提供

エコウォーカーキッズは、保育園の子どもたちが自ら手を挙げてくれているもので、自分たちが活動する範囲のところのごみを拾う取り組みを進めてくれていています。

「環境」を軸とした「ブランド力」の向上と「シビックプライド」の醸成

保護川の自然環境の再生向上
 【観光産業の振興】
 エコリズムへの展開

豊かな環境の保全
 アユモドキの保全
 【安楽川の生態系の保全】
 京都市・亀岡市連立川会
 (グリーンインフラ基金)

まもる想いをつづり
 環境教育の推進
 【次世代教育への継承】
 ぐるみでみかみ活動

エネルギーの地産地消
 高効率なエネルギー
 【エネルギーの地産地消】
 エネルギーの地産地消

企業誘致・雇用創出
 人と調和しやすい
 建築環境の醸成
 【「産地」のブランド力向上】

地産地消・地域外産物の獲得
 リサイクルの促進
 【市内での資源循環】
 ごみ処理費用の軽減

電機ブランドカ
 シェックアップ
 SUSTAINABLE
 DEVELOPMENT
 GOALS

まちのつながり
 企業とのコラボレーション
 【アート・企業・行政が連携の創出】
 ESY BAG Project

亀岡では、環境を切り口に様々なチャレンジをおこなっています。まずエネルギーへの取り組みですが、「亀岡ふるさとエネルギー株式会社」を作り、私が社長をしておりますが、太陽光発電を買って売電しています。またこれまで放出していた下水道から出る消化ガスを利用して発電に変え、その電気を買いそれをまた売電しています。いま亀岡の公共施設は 75%再生可能エネルギーを使っています。また農業においてはまさに環境に優しいエコ農業を進めています。オーガニック野菜を

作っていく取り組み。その他リサイクル、そして環境とのコラボレーション、次世代への教育の進め方。また、アユモドキの保全ということです。特に亀岡は昨年 1 月にスタジアムがオープンしましたが、本来作るべきスタジアムは今のスタジアムから隣のところに 14 ヘクタールの土地を買って作る予定でした。そこにアユモドキという魚がいて、環境団体からスタジアムを作るなど言われましたので、私が市長になってすぐにスタジアム建設地を変更し、新たな投資をおこなってアユモドキを市の魚として未来永劫守っていくことを宣言し取り組みを進めてまいりました。

その他、エコツーリズムへの展開。実は亀岡市内の中学生は保津川下りを貸し切って、ふるさと学習と称して保津川へ舟で出て保津峡の中でごみ拾いや、自然観察をする取り組みも進めております。

2020年度SDGs未来都市 自治体SDGsモデル事業に選定
 かめおか島の芸術祭 × X (かけるエクス)

地域課題解決が強い 日帰り客の誘引が促進 生産年齢人口が減少 都市農業地帯が増加 プラごみが削減化

経済
 ・アートマーケット
 ・まちなつプロジェクト
 ・KAMEOKA FLY BAG Project
 Harvest Journey Kamooka

社会
 ・予約制
 ・グループ
 ・地域ブランド認定制度
 ・移動性
 ・多様な価値観の受け入れ

環境
 ・プラスチック削減
 ・アユモドキの保全
 ・アユモドキの保全
 ・アユモドキの保全
 ・アユモドキの保全

経済・社会・環境というもののコラボレーションによっていろいろな取り組みを進めています。

そんなことをしながら、亀岡は昨年 7 月に国の SDGs 未来都市に認定をいただきました。経済・社会・環境というもののコラボレーションによっていろいろな取り組みを進めています。

2020年度SDGs未来都市 自治体SDGsモデル事業に選定
 かめおか島の芸術祭 × X (かけるエクス)

亀岡市役所地下1階に『開かれたアトリエ』をオープン!! (2021年4月14日)

京都市大学と協働して、地下レストランを分野横断的に人々が交流できる多機能空間にリニューアル

・年に数回テーマを定めた食の展覧会や、KIRI芸術大学のワークショップ、オンライン配信、電通産野産の販売なども順次実施
 ・図書コーナー、フリーWi-Fi完備
 ・レストランはATB CAFE(アトリエカフェ)としてリニューアル!!
 ・亀岡市や電通産野産を使った多彩なメニューを提供
 ・テイクアウト用にはほかうきを付した素材を使用するなど、環境に配慮

・飲食しない人も自由に利用可能
 ・利用料 無料
 ・時間 9:00~17:00
 ・土日祝も利用可(年末年始を除く)
 ・カフェ併設早目のお昼飯

最後に、市役所の地下 1 階にある今まで使われてこなかったレストランを、このような形で「開かれたアトリエ」にして、毎日こういったいろいろな取り組みができる、人の交流できる場としてオープンしました。亀岡はこのような環境のまちづくりを進める中で、これがいま経済につながってきたということです。亀岡が環境で畑を起こし故郷の川を守る取り組みが、結果として亀

岡の農産物、ふるさと納税での農産物の返礼品がどっと増えて、お陰で私が市長になってから 59 億円のふるさと納税の寄付を頂戴しました。環境をやっていると、経済とつながらないだろうとよく事業者から言われましたが、いま実は環境をやることによって亀岡の知名度が上がり、それによってふるさと納税へのアクセスが増えて、結果として経済がそのように回るようになりました。去年は 7 億円の地域の農産物を買って、全国に送らせていただきました。そのように亀岡市は世界に誇れる環境先進都市を目指した取り組みをこれからもますます続けていきたいと思っています。その一つの柱が亀岡のプラスチックごみゼロ宣言であったということです。本日はご清聴いただきありがとうございました。

(終了)